

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
日本語教育学概論	日本語教育学入門	2	小河原 義朗	3	前期 火曜日 3講時	
日本語教育学基礎講読	異文化コミュニケーション[文化]	2	島崎 薫	4	後期 水曜日 2講時	
日本語教育学基礎演習	日本に住む外国人と日本語教育	2	島崎 薫	4	後期 火曜日 3講時	
日本語教育学基礎演習	日本語教育のシラバス	2	小河原 義朗	3	前期 月曜日 5講時	
日本語教育学基礎演習	異文化コミュニケーション[ことば]	2	島崎 薫	3	前期 火曜日 5講時	
日本語教育学基礎演習	日本語教育と第二言語習得	2	小河原 義朗	4	後期 月曜日 5講時	
日本語教育学基礎実習	海外インターンシップ	2	島崎 薫	集中(4)	集中講義	
日本語教育学各論	年少者日本語教育	2	高橋 亜紀子	集中(5)	集中講義	
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原 義朗	5	前期 金曜日 2講時	
日本語教育学演習	日本語教育におけるフィールドワークⅠ	2	島崎 薫	5	前期 火曜日 4講時	
日本語教育学演習	日本語教育におけるフィールドワークⅡ	2	島崎 薫	6	後期 火曜日 4講時	
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	島崎 薫	5	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB32302, 科目ナンバリング：LHM-LIN205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育学入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Teaching of Japanese as a Second Language
3. 授業の目的と概要：日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の声を通じて全体を概観する。同時に、普段当たり前のように使っている日本語、そして実際に生活している日本社会を外から俯瞰して眺め、社会における日本語教育の意義・役割について理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of Japanese language teaching and opportunities to see Japanese language communication objectively to help students learn about the significance of teaching Japanese in our society.
5. 学修の到達目標：(1)日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
(2)日本語教育を通して日本語や日本社会を客観的に捉えることができる。
(3)日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand what is Japanese language teaching
 2. see Japanese society objectively through Japanese language teaching
 3. understand the role of Japanese language teaching in society and explain it in their own words
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 日本語教育を取り巻く社会情勢
 2. 日本語教育とは
 3. 日本語教育と日本語
 4. 日本語教師の仕事
 5. 日本語教育の方法1
 6. 日本語教育の方法2
 7. 日本語教育の現場を知る1
 8. 振り返り1
 9. 日本語教育の現場を知る2
 10. 振り返り2
 11. 日本語教育の現場を知る3
 12. 振り返り3
 13. 日本語教育の現場を知る4
 14. 振り返り4
 15. まとめ、日本語教育の役割※4回の「日本語教育の現場を知る」では、実際の日本語教育や支援の各現場からゲストスピーカーを招く予定である。そのため、全体の流れも変更になることがある。
8. 成績評価方法：

レポート40%・課題60%
9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。
10. 授業時間外学習：指定された資料を読んだり、ビデオを視聴したりする。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

4回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB43208, 科目ナンバリング：LHM-LIN214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異文化コミュニケーション [文化]

2. Course Title (授業題目)：Cross-cultural Communication [Culture]

3. 授業の目的と概要：異文化コミュニケーションの基礎的な知識を身につけると共に、時間軸と空間軸を広げながら社会の中で起こっている異文化コミュニケーションを概観し、授業内でのディスカッションを通して異文化コミュニケーションについて考えを深めます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will develop their fundamental knowledge of cross-cultural communication. They will explore how cross-cultural communication is conducted in the global society and consider how cross-cultural communication should be through class discussion.

5. 学修の到達目標：・異文化コミュニケーションに関する基礎的な知識を深める（文化、アイデンティティ、コミュニケーション、言語、非言語、メディア、グローバル化）

・基礎的な概念を応用して異文化コミュニケーションのさまざまな現場の分析、考察ができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-enhance their understanding of fundamental knowledge of cross-cultural communication (culture, identity, communication, verbal/non-verbal, media, globalization)

-Analyze and discuss on cross-cultural communication by applying the basic concepts

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (10/4)：イントロダクション

第2回 (10/11)：「異なる」という意味

第3回 (10/18)：コミュニケーションとは

第4回 (10/25)：メディアにおけるコミュニケーション

第5回 (11/1)：非言語によるコミュニケーション

第6回 (11/8)：グローバル化とメディア

第7回 (11/15)：異文化コミュニケーションの現場①

第8回 (11/22)：異文化コミュニケーションの現場②

第9回 (11/29)：異文化コミュニケーションの現場③

第10回 (12/6)：異文化コミュニケーションの現場④

第11回 (12/13)：異文化コミュニケーションの現場⑤

第12回 (12/20)：異文化コミュニケーションの現場⑥

第13回 (1/10)：異文化コミュニケーションの現場⑦

第14回 (1/17)：異文化コミュニケーションの現場⑧

第15回 (1/24)：まとめ

12/27 は金曜日の授業が行われます。

1/31 は授業予備日です。学期中に休講にした場合、授業を実施します。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書：池田理知子・埜幸枝（編）（2020）『グローバル社会における異文化コミュニケーション：身近な「異」から考える』三修社

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB42303, 科目ナンバリング：LHM-LIN214J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本に住む外国人と日本語教育

2. Course Title (授業題目)：Foreign Residents and Japanese language education

3. 授業の目的と概要：日本語学校に通う留学生や技能実習生、外国人配偶者、外国につながるのある子どもなど日本に暮らす多様な外国人について知るとともに、彼らを取り巻く問題や課題について理解し、日本語教育がどのように貢献することができるかについて講義や文献、それらをもとにしたクラスでのディスカッションを通して考える。また、実際に現場にも足を運び、日本で暮らす外国人に接する機会を設ける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will help students understand a variety of foreign residents in Japan, such as students at Japanese language schools, technical intern trainee, foreign spouses, and JSL children). The students will explore difficulties of the foreign residents and consider how Japanese language education can contribute to it through lectures, reading papers and class discussion. This course also provides the students with opportunities to visit and see foreign residents in Miyagi.

5. 学修の到達目標：・日本で暮らす外国人について知る

・在日外国人を取り巻く課題、問題について理解する

・それらの問題に日本語教育がどのように貢献できるのかについて考えることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-enhance their understanding of foreign residents in Japan

-get to know their difficulties

-consider how Japanese language education can contribute to these issues

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (10/3)：イントロダクション

第2回 (10/10)：在日外国人と日本社会

第3回 (10/17)：日本語学校で学ぶ留学生①

第4回 (10/24)：日本語学校で学ぶ留学生②

第5回 (11/7)：外国人配偶者①

第6回 (11/14)：外国人配偶者②

第7回 (11/21)：外国につながるを持つ子ども①

第8回 (11/28)：外国につながるを持つ子ども②

第9回 (12/5)：技能実習生①

第10回 (12/12)：技能実習生②

第11回 (12/19)：まとめ

授業時間外に日本語学校や地域の日本語教室の見学に行きます。スケジュールは授業内で相談しながら決めます。見学のスケジュールに合わせて、第3回～第10回の授業の内容も順番が入れ替わる可能性があります。第12回～第15回分は見学に充て、授業自体は休講としますが、学期中に授業を休講にした場合、補講授業を実施します。

なお、10/31は金曜日の授業が行われます。

8. 成績評価方法：

授業での課題 30%、最終レポート 40%、授業への参加態度 30%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。また授業外の時間に実際の現場に見学に行きます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

見学を伴う授業のため、履修者を10名までに制限します。日本語教育学研究室に所属する学生を優先します。

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB31504, 科目ナンバリング：LHM-LIN215J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育のシラバス
2. Course Title (授業題目)：syllabus for teaching Japanese language
3. 授業の目的と概要：日本語を教えるために必要な日本語のシラバスの基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students understand the basic knowledge of syllabus for teaching Japanese language and consider it relating to Japanese teaching practice.
5. 学修の到達目標：(1)日本語教育のための日本語のシラバスの基礎を理解し説明できる。
(2)日本語のシラバスの観点から日本語を分析することができる。
(3)日本語のシラバスを日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand the basic knowledge of syllabus for teaching Japanese language
 2. analyze Japanese language by using knowledge of the syllabus
 3. consider it relating to Japanese teaching practice
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業実施方法（授業の実施形態：対面）
 1. イントロダクション
 2. 日本語教育の参照枠
 3. 名詞文①
 4. 名詞文②
 5. 名詞文③
 6. 形容詞文①
 7. 形容詞文②
 8. 動詞文①
 9. 動詞文②
 10. 動詞文③
 11. 活用①
 12. 活用②
 13. 教案作成
 14. 模擬授業
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：
期末テスト 30%・クイズ 30%・課題 40%
9. 教科書および参考書：
『みんなの日本語 初級1』スリーエーネットワーク
『Situational Functional Japanese 1』凡人社
10. 授業時間外学習：毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。事前課題があるときは、期日までに提出し、授業に持参すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
日本語教育学概論を履修していること。
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB32504, 科目ナンバリング：LHM-LIN215J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異文化コミュニケーション [ことば]
2. Course Title (授業題目) : Cross-cultural Communication [Language]
3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語学習者とのコミュニケーションを通して接触場面におけるコミュニケーションについて理解を深める。日本語学習者との会話セッションへの参加経験をもとに、論文の購読や講義、他の受講生とのディスカッションをしながらコミュニケーションについて考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course will provide students with opportunities to communicate with Japanese language learners and develop their understanding of communication in contact situations. They will also consider about communication through reading related papers, listening to lectures, and discussing with other students.
5. 学修の到達目標：・コミュニケーションとは何かについて自分の言葉で説明できる
・接触場面における日本語学習者や母語話者の日本語の特徴について説明することができる
・接触場面におけるコミュニケーションの特徴について説明することができる
6. Learning Goals (学修の到達目標) : After completion of this course, students are expected to:
 - ・describe what communication is in their own words;
 - ・understand and explain the characteristics of "Japanese language" native and non-native speakers use;
 - ・understand and explain the characteristics of communication in contact situations.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 (4/11) : イントロダクション
 - 第2回 (4/18) : コミュニケーションとは①
 - 第3回 (4/25) : コミュニケーションとは②
 - 第4回 (5/2) : 言語的・非言語的コミュニケーション
 - 第5回 (5/9) : コミュニケーション能力とは①
 - 第6回 (5/16) : コミュニケーション能力とは②
 - 第7回 (5/23) : 日本語学習者の日本語
 - 第8回 (5/30) : 日本語学習者の日本語
 - 第9回 (6/6) : 日本語母語話者の日本語
 - 第10回 (6/13) : 日本語母語話者の日本語
 - 第11回 (6/20) : 接触場面でのコミュニケーション：共話
 - 第12回 (6/27) : 接触場面でのコミュニケーション：会話の諸相①
 - 第13回 (7/4) : 接触場面でのコミュニケーション：会話の諸相②
 - 第14回 (7/11) : 接触場面でのコミュニケーション：コミュニケーションストラテジー
 - 第15回 (7/18) : まとめ7/25 は授業予備日です。学期中に休講にした場合、授業を実施します。
8. 成績評価方法：

授業への参加態度 30%、授業での課題（毎週のラーニングジャーナルを含む） 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：

Cross-cultural communication [Language]
10. 授業時間外学習：この授業では、第2回目の授業から第14回目の授業まで 17:30-18:30 に実施する日本語学習者との会話セッションに参加してもらいます。授業の終了は 18:30 になります。
11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB41502, 科目ナンバリング：LHM-LIN215J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育と第二言語習得
2. Course Title (授業題目)：Second Language Acquisition Research
3. 授業の目的と概要：日本語を教えるための理論的アプローチの一つとして第二言語習得研究を取り上げる。第二言語習得の基本的な考え方を理解し、具体的な教材や教室活動と結び付けて捉えることによって、第二言語習得理論を踏まえた授業実践について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand the basic knowledge of SLA and consider it relating to various teaching practice(teaching materials and classroom activities)
5. 学修の到達目標：(1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し説明できる。
(2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。
(3)第二言語習得研究の方法論を自らの研究に活用することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to be able to:
 1. explain the basic knowledge of SLA
 2. consider it relating to practice in Japanese language teaching
 3. apply it to their own study.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 第二言語習得研究
 3. 中間言語
 4. 母語の影響
 5. 習得順序
 6. インプットとアウトプット
 7. インターアクション
 8. 教室における学習①
 9. 教室における学習②
 10. 教室における学習③
 11. 教室における学習④
 12. 教案作成
 13. 模擬授業
 14. 振り返り
 15. テスト
8. 成績評価方法：

テスト50%・課題50%
9. 教科書および参考書：

大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

日本語教育学概論・日本語教育学演習(前期)を受講済みであること。
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎実習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Practice)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：集中(4) 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB98804, 科目ナンバリング：LHM-LIN215J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Education Internship Abroad

3. 授業の目的と概要：長期休業中に2週間海外の日本語教育の現場に行き、どんな日本語学習者が海外の日本語教育の現場で学んでいて、どのような授業が実施されているのかを知るとともに、実際にその現場にTAとして参加したり、日本文化ワークショップを実施したりすることで、教育実践の経験を積む。参加にあたり、個人で達成したい目標、それを達成するための計画を立て、実施する。また、海外の教育現場に行き、自分自身が外国人として現地の文化やことばに触れることで、日本に住む外国人の気持ちや生活環境に寄り添えるマインドを育成する。なお、2023年度は3月に実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with an opportunity to participate in Japanese Language Education Internship Abroad for 2 weeks. The students will see what kind of people are learning Japanese overseas and how Japanese language classes are conducted, and have educational experience such as participating in language classes as a TA, and carrying out a culture workshop.

5. 学修の到達目標：・海外における日本語学習者、日本語教育の多様性を知る

- ・インターンの参加に際して自身で目標を決め、それに向かって計画を立てて自律的に実行することができる
- ・異なることばや文化への理解を深める

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- develop their understanding of a variety of Japanese language learners and education overseas
- set goals, make a plan in order to reach the goals, and carry out the plan autonomously
- enhance their understanding of different languages and culture

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

事前研修①：オリエンテーション、インターンシップにおける個人目標の設定

事前研修②：現地のことば、文化を知るワークショップ、計画の実施状況の報告

事前研修③：日本文化ワークショップの内容の検討、計画の実施状況の報告

事前研修④：日本文化ワークショップの内容の検討、危機管理セミナー、計画の実施状況の報告
インターンシップ（2週間）

事後研修：振り返り、学びの共有

報告会：インターンシップでの成果の報告

◎詳細な日程は、インターンシップの日程が決まり次第、履修学生とともに調整する。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、日本文化ワークショップ企画書 15%、目標設定・計画シート 15%、報告書 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：必要に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

海外インターンシップは、都合により実施されない場合もあります。また履修人数に制限があり、日本語教育学研究室に所属する学生の履修が優先されます。日本語教育学研究室以外に所属する学生が履修を希望する場合は、後期が始まり次第、担当教員までお問合せください。(メール：k.shimasaki@tohoku.ac.jp) なお、この海外インターンシップは基礎実習のため、日本語を教える教壇実習は含まれません。

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中(5) 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB98809, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：年少者日本語教育
2. Course Title (授業題目)：Japanese language education for children
3. 授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In recent years, the number of foreign residents has increased significantly, and at the same time, the number of foreign children whose mother tongue is not Japanese is also increasing in Japanese schools. In this class, students will develop their understanding of foreign children who need Japanese language supports and gain fundamental knowledge of Japanese language teaching and learning support for them.
5. 学修の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。
2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。
3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-enhance their understanding of the current situation and issues of education for foreign children
- understand and describe the difficulties in life and learning of children
-gain fundamental knowledge of Japanese language teaching for children and be able to support them
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (1)
 3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (2)
 4. 子どもの生活や学習上の困難点 (1)
 5. 子どもの生活や学習上の困難点 (2)
 6. 子どもへの日本語支援の方法 (1) 受け入れの準備
 7. 子どもへの日本語支援の方法 (2) サバイバル・日本語基礎
 8. 子どもへの日本語支援の方法 (3) 日本語指導と教科の統合学習
 9. 子どもへの日本語支援の方法 (4) 教科の補習
 10. 子どもへの日本語支援体験 (1)
 11. 子どもへの日本語支援体験 (2)
 12. 子どもへの日本語支援体験 (3)
 13. 体験の振り返り
 14. 教師の役割
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%
9. 教科書および参考書：
文部科学省 (2019)『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
*授業では、子どもの支援を実際に行うことを予定していますが、諸事情により実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB55206, 科目ナンバリング：LHM-LIN336J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要： 学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the contents and methods to improve oral language skills in the Japanese language classroom. Through activities and exercises, students will learn how to plan, practice and evaluate oral communication classes.

5. 学修の到達目標：(1)話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2)目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:

1. understand various class activities to improve speaking skills

2. create effective class activities and evaluate them through Japanese course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. コミュニケーション活動の実際

3. コミュニケーション活動の分析

4. 教材作成1

5. 模擬授業の実施1

6. 模擬授業の実施2

7. 授業改善・評価1

8. 教材分析1

9. 模擬授業の実施3

10. 模擬授業の実施4

11. 授業改善・評価2

12. シラバスの作成1

13. シラバスの作成2

14. 教案作成1

15. 教案作成2

8. 成績評価方法：

レポート50%・課題50%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB52405, 科目ナンバリング：LHM-LIN336J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育におけるフィールドワーク I

2. Course Title (授業題目)：Fieldwork in Japanese Language Learning I

3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語教育におけるフィールドワークの研究計画の作成、データ収集の方法（インタビュー、観察）について学びます。夏季休業中にデータ収集を行い、後期に開講される「日本語教育におけるフィールドワーク II」で分析、論文の執筆について学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students make a research proposal of fieldwork in the area of Japanese language learning and collect qualitative data (interview and observation). The students will collect data during their summer vication, analyze it, and write up a mini-paper in the "Fieldwork in Japanese Language Learning II"

5. 学修の到達目標：・フィールドワークとは何かを説明できる

- ・研究計画を立てることができる
- ・目的に合わせて適切なインタビューができる
- ・目的に合わせて適切な観察ができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- explain what "fieldwork" is
- make a research plan
- conduct interviews according to their purposes
- conduct observation according to their purposes

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (4/11)：イントロダクション

第2回 (4/18)：フィールドワークとは

第3回 (4/25)：フィールドワークを使った研究①

第4回 (5/2)：フィールドワークを使った研究②

第5回 (5/9)：研究計画の立案

第6回 (5/16)：情報収集の方法

第7回 (5/23)：研究倫理

第8回 (5/30)：インタビュー①：種類、質問作成の方法

第9回 (6/6)：インタビュー②：ライフストーリーインタビュー

第10回 (6/13)：インタビュー③：ライフストーリーインタビューの実践

第11回 (6/20)：インタビュー④：文字起こしと振り返り

第12回 (6/27)：観察①：観察とは、記録のつけ方

第13回 (7/4)：観察②：実践、実践の振り返り

第14回 (7/11)：研究計画の検討①

第15回 (7/18)：研究計画の検討②

7/25 は授業予備日です。学期中に授業を休講にした場合、補講授業を実施します。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終課題（研究計画書）40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

後期に開講される「日本語教育におけるフィールドワーク II」と合わせて履修してください。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB62405, 科目ナンバリング：LHM-LIN336J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育におけるフィールドワークⅡ
2. Course Title (授業題目)：Fieldwork in Japanese Language Learning Ⅱ
3. 授業の目的と概要：この授業では、前期に開講した「日本語教育におけるフィールドワークⅠ」で計画した調査を夏季休業中に実施し、そこで収集したデータを分析し、ミニ論文としてまとめます。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course helps students analyze qualitative data and write up a mini-paper based on the data collection in "Fieldwork in Japanese Language Learning I"
5. 学修の到達目標：・フィールドワークで得られたデータを適切に分析することができる
・フィールドで得られた知見を発表やミニ論文の形でわかりやすくまとめることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-analyze data collected in the fieldwork properly
-make a presentation and write up a mini-paper based on the result
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (10/3)：イントロダクション
第2回 (10/10)：データ収集の報告と振り返り
第3回 (10/17)：データの分析方法
第4回 (10/24)：データの分析①
第5回 (11/7)：データの分析②
第6回 (11/14)：分析の検討①
第7回 (11/21)：分析の検討②
第8回 (11/28)：問いの再検討
第9回 (12/5)：発表の準備
第10回 (12/12)：発表①
第11回 (12/19)：発表②
第12回 (12/26)：論文の形式
第13回 (1/9)：ミニ論文の検討①
第14回 (1/16)：ミニ論文の検討②
第15回 (1/23)：まとめ
10/31は金曜日の授業が行われます。
1/30は授業予備日です。学期中に授業を休講にした場合、補講授業を実施します。
8. 成績評価方法：
授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終課題（ミニ論文）40%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
前期に開講された「日本語教育におけるフィールドワークⅠ」を履修し、単位を取得していることがこの授業の履修条件です。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB53312, 科目ナンバリング：LHM-LIN337J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎
2. Course Title (授業題目)：Coordination of a Japanese Language Course
3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、実施する力を養うことを目的とする。前期は日本語コース内でどのような活動ができるのかについての知識やスキルを身につけるとともに、後期に実施するコースのデザインを行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through teaching practicums in spring and fall semesters, students will acquire skills in designing and conducting a language course for learners' individual needs, readiness and situations. In spring semester, students will earn skills and knowledge of how to conduct class activities and design a Japanese language course carried out in the next fall semester.
5. 学修の到達目標：・様々な授業内活動について知る
・目的に合わせた活動やコースをデザインすることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
・ understand variation of class activities;
・ design a class activity according to purposes
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (4/12)：イントロダクション
第2回 (4/19)：コースデザインとは①
第3回 (4/26)：コースデザインとは②
第4回 (5/10)：多様な授業内活動①
第5回 (5/17)：多様な授業内活動②
第6回 (5/24)：多様な授業内活動③
第7回 (5/31)：授業案の作成①
第8回 (6/7)：授業案の作成②
第9回 (6/14)：授業案の作成③
第10回 (6/21)：授業案の作成④
第11回 (6/28)：実践と振り返り①
第12回 (7/5)：実践と振り返り②
第13回 (7/12)：実践と振り返り③
第14回 (7/19)：実践と振り返り④
第15回 (8/2)：まとめ
5/3は祝日のため休講です。8/7(月)は授業予備日です。学期中に授業を休講にした場合、補講授業を実施します。
8. 成績評価方法：
授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：授業外の時間に授業見学を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
学部生は、日本語教育学専修で開講されている日本語教育学概論、日本語教育学基礎講読をすべて履修し、単位を取得していることがこの実習を履修する条件です。日本語教育学専修以外の学生でこの実習の履修を希望する方は、担当教員まで事前にご相談ください (Email: k.shimasaki@tohoku.ac.jp)。なお、大学院生で日本語教育学専攻分野以外の学生は基本的に履修を認めていません。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時. 後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB63312, 科目ナンバリング：LHM-LIN337J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：Coordination and improvement of a Japanese Language Course

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、実施する力を養うことを目的とする。後期は前期にデザインしたコースを実際に運営し、授業を行いながらコースの改善、授業の改善に取り組む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through teaching practicums in spring and fall semesters, students will acquire skills in designing a language course for learners' individual needs, readiness and situations. In the fall semester, students will design and carry out a Japanese language course.

5. 学修の到達目標：・デザインしたコースを他の学生と協力しながら運営することができる

・自分やグループのメンバーの実践を振り返り、授業自体やコース全体の改善案を考えることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

・conduct a Japanese language course with other students cooperatively;

・suggest an improvement based on their reflection.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (10/4) : イントロダクション

第2回 (10/11) : コース開講の準備①

第3回 (10/18) : コース開講の準備②

第4回 (10/25) : 模擬授業

第5回 (11/1) : 模擬授業と振り返り

第6回 (11/8) : 模擬授業と振り返り

第7回 (11/15) : 模擬授業と振り返り

第8回 (11/22) : 模擬授業と振り返り

第9回 (11/29) : 模擬授業と振り返り

第10回 (12/6) : 模擬授業と振り返り

第11回 (12/13) : 模擬授業と振り返り

第12回 (12/20) : 振り返り

第13回 (1/10) : コースデザインの評価

第14回 (1/17) : 授業分析

第15回 (1/24) : まとめ

12/27 は金曜日の授業が行われます。

1/31 は授業予備日です。学期中に授業を休講にした場合、補講授業を実施します。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、教案・振り返り 30%、授業分析報告書 20%、実習報告書 20%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に教壇実習（対面）を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

前期の日本語教育学実習（学部）または日本語教育学研究実習 I（大学院）を履修し、単位を取得していることがこの授業の履修の条件です。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6) 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB98827, 科目ナンバリング：LHM-LIN337J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2. Course Title (授業題目)：Japanese language education internship abroad

3. 授業の目的と概要：これまでに受講してきた日本語教員養成課程を通して得た知識とスキルを踏まえて、長期休業中に約2週間海外の日本語教育現場に行き、どのような学習者がどのような学習環境で日本語を学習しているのかを知り、どのような日本語教育が行われているのかを見学し、さらに現地日本語コースの教員の指導のもとで日本語を実際に教えることを体験する。同時に現地における異文化や異文化コミュニケーションを体験する。なお、本年度は2、3月中に実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class provides students with opportunities to participate in Japanese language education internship abroad for 2 weeks. The students will see what people are learning Japanese language overseas and how Japanese language classes are conducted, and have experience to teach Japanese in classes as a student teacher.

5. 学修の到達目標：1. 海外の日本語教育と学習者の多様性を知る

2. 海外の日本語教育の現場を見て学ぶ

3. 海外の日本語教育の現場で実際に教える体験をする

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- understand Japanese language education and a variety of Japanese language learners overseas
- observe Japanese language teaching classes overseas
- get experiences to teach Japanese language overseas

7. 授業の内容・方法と進度予定：

スケジュール (予定)

事前活動①：オリエンテーション

事前活動②：現地教員との打ち合わせと準備

事前活動③：現地とのオンライン日本語クラス参加

事前活動④：進捗状況報告と最終打ち合わせ

海外インターンシップの実施 (約2週間)

事後活動①：振り返り、報告書の作成

事後活動②：報告会の開催

日程の詳細は、インターンシップの日程が決まり次第、履修学生と調整する。

8. 成績評価方法：

事前課題 50%、事後報告書 50%

9. 教科書および参考書：

授業内で指示する。

10. 授業時間外学習：基本的に海外インターンは授業時間外に行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

- ・3年次の日本語教育学実習(前後期)を履修済であること。
- ・海外インターン先の事情により、開講されないことがある。
- ・履修人数に制限があるため、履修希望者は、学期前に担当教員に連絡し相談すること。